

- 4月26日（日）時点で、札幌圏域の患者数は273名（うち42名は宿泊療養）。
- 札幌圏域では、感染症病床（市立札幌／8床）のほか一般病床等の活用により、175床（札幌市171床、千歳市4床）を確保するとともに、順次、受入病床の拡大を進めていただいている状況。また、搬送体制も確保しつつ、広域的な入院調整を行い、入院医療体制を確保しているところ。
また、4月20日（月）から、軽症者に係る宿泊療養の施設として、東横INN札幌すすきの南（120名程度）を確保。
- さらなる患者の増加を見据え、宿泊療養に係る体制を拡充。
 - ① 4月30日（木）から、札幌市内2カ所目の宿泊療養の施設として、「リッチモンドホテル札幌駅前」（140名程度）を確保し、受入れを開始することとする。
 - ② これまでは「病院に入院中の軽快者」を対象として宿泊療養に移行してきたが、4月29日（水）から、オンコール体制の拡充等により健康管理を強化することを前提に、陽性確認された軽症者について、病院への入院を経ることなく宿泊療養に移行することとする。

新型コロナウイルス感染症の軽症者等の宿泊療養について

陽性者

重症者・中等症者
(左記に該当しない者)

入院

軽症者

- (1) 無症状病原体保有者
- (2) 以下のいずれにも該当する軽症者
 - ① 高齢者ではないこと
 - ② 著しい発熱が無いこと
 - ③ 呼吸困難がないこと
 - ④ 問診で、基礎疾患の状況、免疫抑制の状況、妊娠の状況、その他の状況を確認の上、入院は不要と判断されたこと

軽症者

(左記の基準に該当するに至った者)

重症化の兆候が
確認された場合
速やかに入院

直接
宿泊療養
に移行

軽快化した
段階で
宿泊療養
に移行

宿泊療養

東横INN札幌すすきの南
(120名程度)

リッチモンド札幌駅前
(140名程度)

札幌市内における宿泊療養（概要）

赤字部分が
従来運用からの変更点

宿泊施設

- 東横INN札幌すすきの南（120名程度）、**リッチモンド札幌駅前（140名程度）**を借り上げ
- 居室は「個室」（トイレ・入浴設備付）
- 建物内は適切なゾーニングを実施

基本的な対応

- 軽症者は建物内で生活（外出不可）
- 職員は電話で対応
※施設利用開始時の説明を除き、対面対応は行わない
- 職員に対する感染防護対策の指導、健康管理
※職員に対する感染防護対策の指導等に関しては、自衛隊に災害派遣要請を実施
- 療養者の自己負担は無し

健康管理

- 医師は、**札幌医大の救急医によるオンコール対応**
看護師・保健師は24時間常駐
※体温計とパルスオキシメーターを配布し、1日2回測定。
※看護師等が電話により健康観察。
自覚症状等の申告があった場合は、対面で健康観察し、必要に応じ、救急医に相談。
- 急変時の搬送先を確保
- PCR検査の検体採取を実施
※道医師会（COVID-19 JMAT）の協力
- ストレスに対する支援
※精神保健福祉センター等の協力

食事・生活支援

- スタッフは24時間常駐
- 食事・リネン類の管理
※アレルギー対応に留意
※対面せずに配布
- 日用品等の確保
※各室でwifi環境、テレビを確保
- 掃除・洗濯は自ら実施
※洗濯用の洗剤を配布
※ゴミについては、定められた集積所に自ら廃棄